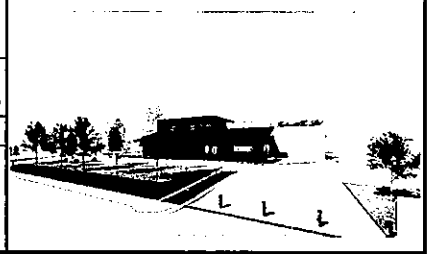


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社 テクノブル サ	階数	地上2F
建設地	京都府相楽郡精華町光台1丁目2-	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
地域区分	S地域	年間使用時間	1,800時間/年(想定値)
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年5月19日
敷地面積	10,796 m ²	作成者	平川憲亮
建築面積	2,215 m ²	確認日	2017年5月26日
延床面積	3,062 m ²	確認者	上羽一輝



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 2.9	Q2のスコア = 3.2	Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 2.8	LR2のスコア = 3.3	LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
<p>Q1 室内環境</p> <p>F☆☆☆☆以上の建築材料を使用し、化学汚染物質の放散量を削減する計画とする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>2階には従業員ラウンジを設けリフレッシュできるスペースを計画している。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>計画建物は2階建て(一部平屋建て)とし、高さを極力抑え、周辺に対する圧迫感を軽減する。また道路・隣地境界にフェンス等の囲いはず、見通しの良い、開放性のある植栽帯を設ける。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電設備を設置することで自然エネルギーの利用を行っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>内装材を乾式化することで、改修しやすく材料の再利用の可能性を高めている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建物形状をコンパクトにし、既存の緑地を残し、さらに敷地周辺に植栽帯を配した計画としている。また南面には高木、低木を配置し、敷地外への熱的影響の悪化防止に努めた。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される